



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

幼保小接続の改善について

令和5年5月26日（金）

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課長

藤岡 謙一

学力格差

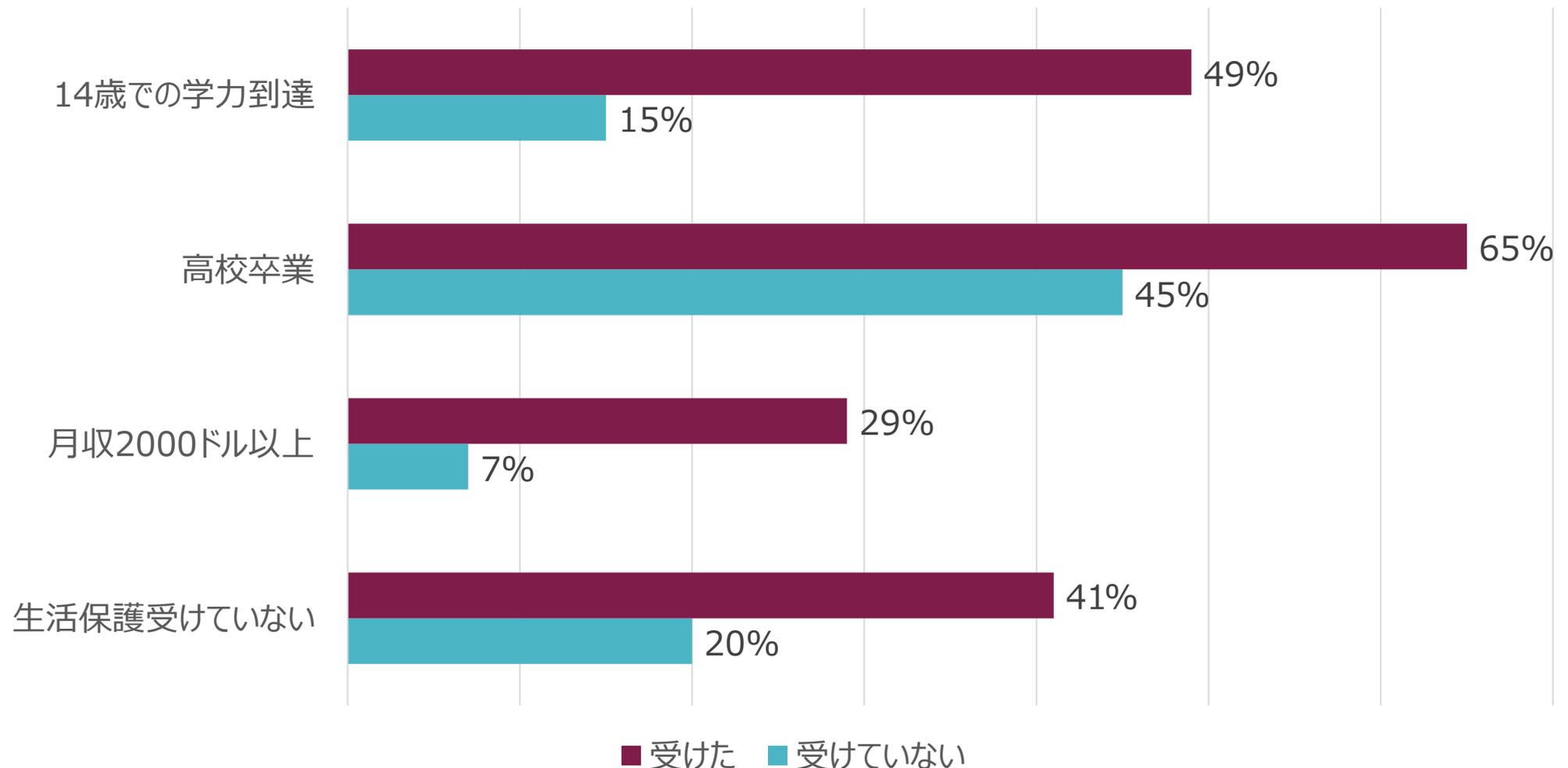
いじめ、不登校
人間関係のトラブル

保護者、地域住民との関係

ペリー就学前プロジェクト

アメリカで実施

低所得者層の子について、質の高い幼児教育を受けるグループと受けないグループに分けて、その後40歳まで追跡調査



非認知能力

IQに代表されるような認知的な能力ではないものを幅広く指す総称

GRIT（やりぬく力）

Guts（困難に立ち向かう度胸）

Resilience（失敗しても諦めない粘り強さ）

Initiative（自らが目標を定め取り組む自主性）

Tenacity（最後までやり遂げる執念）

（アンジェラ・リー・ダックワース　ペンシルベニア大学心理学部教授）

子供の豊かな学びのためには

幼児期で育んだ資質・能力をベースにして

小学校以降において

「主体的、対話的で、深い学び」

を実現する

幼稚園教育要領 総則（平成29年改訂）

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(1) 幼稚園においては、**幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる**ことに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

(2) **幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われる**よう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

※保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも同様のことが規定

小学校学習指導要領 総則（平成29年改訂）

4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

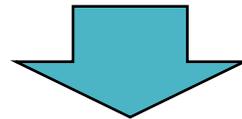
また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと

中央教育審議会での検討

令和3年7月

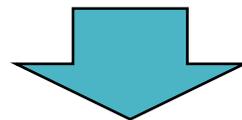
中央教育審議会の下に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」設置

幼児期・幼保小の接続期の質の向上について検討開始



令和4年3月

「審議経過報告」を取りまとめ



令和5年2月

「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」を取りまとめ

幼保小の接続の改善

【これまで】

交流活動

数か月間

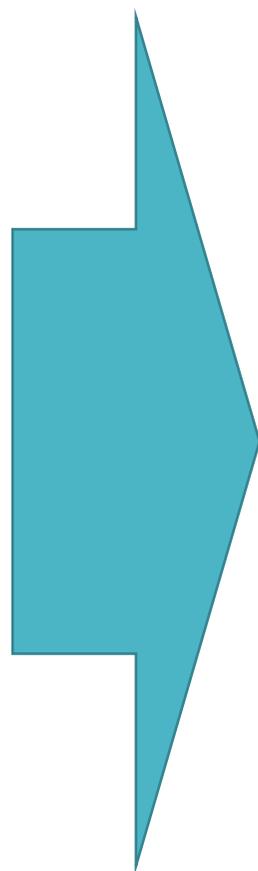
施設単位

【これから】

カリキュラム編成

2年間
「架け橋期」(5歳~小1)

地域単位



具体的な幼保小接続の手法や留意点などは

文部科学省HPの

- ・ 幼保小架け橋プログラムの実施に向けての手引き
 - ・ 手引きの説明動画
- をご参照ください。

幼保小架け橋プログラム 手引き

検索

